

第10回 済生会生活困窮者問題シンポジウム

「いわて発・生活困窮者問題を考える」
～「きたかみ型地域包括ケアビジョン」と地域共生社会～



「桜の名所百選」北上展勝地



さくるん ふわりん

令和4年 **11月12日(土)** 13:00～16:25

会場：**日本現代詩歌文学館** 北上市本石町2丁目5-60
入場無料（事前申込制）定員100名 ※オンライン参加に制限はありません。

主催：社会福祉法人 済生会 支部 岩手県済生会
主管：北上済生会病院
後援：岩手県、北上市、岩手県医師会、北上医師会、
岩手県社会福祉協議会、北上市社会福祉協議会、岩手県看護協会、
岩手県介護支援専門員協会、岩手県医療ソーシャルワーカー協会、
岩手日報社、岩手日日新聞社、北上ケーブルテレビ

会場へのアクセス



電車：北上駅西口から徒歩約20分
自動車・タクシー：
北上駅西口から約7分
北上江釣子ICから約7分
いわて花巻空港から約30分



お申し込み・お問い合わせ



社会福祉法人 済生会
北上済生会病院
北上市在宅医療介護連携支援センター
〒024-8506
岩手県北上市九年橋三丁目15番33号
TEL 0197-64-7722(代表)
FAX 0197-65-6122(直通)
E-mail iwatesympo@saiseikai-hp.or.jp



お申し込みフォームURL

所属、氏名、連絡先、参加方法（会場・WEB）
WEB参加の場合はMailアドレスをご記入ください。

プログラム

- 日時：令和4年11月12日（土）
13:00～16:25（受付12:00～）
- 12:00～13:00 受付（会場・Webライブ配信）
- 13:00～13:15 開会
開会挨拶 北上済生会病院 院長 一戸 貞文
理事長挨拶 社会福祉法人 済生会 理事長 炭谷 茂
- 13:15～13:25 北上市の紹介
岩手県済生会のあゆみとデータでみる「いわて北上」
- 13:25～14:25 基調講演
演題：「地域が元気であるために」
★ 講師 岩手県済生会 支部長 伊藤 彬
(前北上市長)
- 14:25～14:35 休憩
- 14:35～15:50 シンポジウム
～「きたかみ型地域包括ケアビジョン」と地域共生社会～
★ コーディネーター 北上済生会病院 副院長 柴内 一夫氏
兼 北上市在宅医療介護連携支援センター長
★ シンポジスト 北上市社会福祉協議会 菊地 里枝氏
暮らしの自立支援センターきたかみ センター長
NPO法人わらすば 理事長 大内 玲子氏
地域包括支援センターわっこ 管理者 老林 聖幸氏
北上済生会病院 北上市在宅医療介護連携支援センター 医療ソーシャルワーカー 菊池 涼子氏
- 15:50～16:15 ディスカッション
- 16:20～16:25 閉会
閉会挨拶 北上済生会病院 事務長 小笠原秀俊

テーマと目的

「いわて発・生活困窮者問題を考える」 ～「きたかみ型地域包括ケアビジョン」と地域共生社会～

第2回の山形県開催から東北での開催が2度目となる今回のシンポジウムでは、長年、市民に親しまれてきた病院として果たしてきた使命を顧みながら、北上市の変遷と未来のまちづくりビジョンについて共有し、社会情勢の変化に伴う様々な生活問題が複雑・困難化する現代において、新たな視点で「生活困窮者問題とは何か」を考える機会として開催します。

また、生活困窮者支援の根幹と言える「地域共生社会」について、「環境」「産業」「交通」「医療」「教育」「住まい」の分野に関わるシンポジストの皆さんと対話を重ねながら、「きたかみ型地域包括ケアビジョン」の成果と課題を共有し、未来のまちづくりについて考えてまいります。

ごあいさつ

社会福祉法人 岩手県済生会 理事長

炭谷 茂



済生会は、創設111年になりますが、一貫して社会の底辺で問題を抱える生活困窮者の支援に取り組んでいます。

今日でもひとり暮らしの高齢者、社会参加が困難な障がい者、長い間引きこもりの人などが増加し、多くの問題が生じています。そこで済生会では令和2年7月に「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」を策定し、誰もが地域社会の一人として尊厳を持って暮らせるまちづくりを目指しています。

今回のシンポジウムでは北上市での課題に向き合い、その解決策を参加者の方々と一緒に考えてみたいと思います。

北上市在宅医療介護連携支援センターの活動

(愛称 在宅きたかみ)

当センターは平成28年、北上市より北上済生会病院が在宅医療介護連携拠点業務を受託し事業を開始、令和2年の病院新築移転を機に独立型のセンターを開設し「在宅きたかみ」と「北上市」が両輪となり事業を進めてまいりました。

医療・介護連携に関する相談業務、多職種との協働・人材育成に関する研修会の企画運営、医療・介護連携における課題分析と解決策の検討から生まれた「介護施設看取り実態調査報告書」や「入退院支援ハンドブック」の発行、市民・行政・医療・介護関係者が話し合いを重ねて作成した「わたしのきぼうノート」の普及啓発など、幅広く活動しております。

基調講演

「地域が元気であるために」

岩手県済生会 支部長

伊藤 彬
(前北上市長)



武蔵大学経済学部卒業。北上商工会議所会頭を経て、平成11年4月から3期12年にわたり市政の舵取りを担い、平成23年4月に北上市長を勇退。初の民間市長として任期中に住民参加の計画づくりとして、「地域計画」の立案や「行財政緊急プログラム」の取り組み、市民活用型の文化交流センター「さくらホール」の完成など、数多くの実績を残す。

平成11年5月から平成23年5月まで岩手県済生会理事、平成26年4月からは岩手県済生会支部長を務める。

シンポジスト

暮らしの自立支援センターきたかみの取り組み ～寄り添い支援を目指して～

北上市社会福祉協議会
暮らしの自立支援センターきたかみ センター長 菊地 里枝 氏



1995年に北上市社会福祉協議会に入職し、2000年から基幹型在宅支援センター、地域包括支援センターに社会福祉士として携わる。2011年の東日本大震災では災害ボランティアセンターの立ち上げ、避難者生活支援センターの創設に関わってきた。

2014年から暮らしの自立支援センターきたかみ（生活困窮者自立支援機関）のセンター長(兼)主任相談支援員として包括的な困窮者支援に携わっている。

子どもの貧困連鎖の解消を目指して

NPO法人わらすば
理事長 大内 玲子 氏



1978年に仙台の専門学校を卒業後、教員として着任。その後、1990年に水沢第一高等学校に着任し2018年に定年退職。2021年、NPO法人「わらすば」を設立し、子ども食堂や高校卒業をサポートするフリースクールなど、子どもが安心して過ごせる居場所運営をスタートさせたほか、ひきこもりや高齢者の居場所づくりにも日々奔走している。2022年には金ヶ崎町に「わらすば金ヶ崎スクール」をオープンし、さらには、NPO法人「奥州わらすば」を設立し、地域住民と密着した活動を広げている。

コーディネーター

北上済生会病院 副院長
兼 北上市在宅医療介護連携支援センター長

柴内 一夫 氏



脳神経外科医。主に脳血管障害の急性期診療に携わってきた。2017年4月より北上済生会病院に赴任。かねてより地域医療への関心があり、北上市在宅医療介護連携支援センター長として、日常診療に取り組みながら、地域の医療と介護のネットワークづくりに力を入れている。

北上市における地域包括支援センターの 取り組み

地域包括支援センターわっこ 管理者 老林 聖幸 氏



介護老人保健施設での勤務を経て、居宅介護支援事業所の介護支援専門員として勤務。2013年に地域包括支援センターが民間委託開始となり、立ち上げから現在まで管理者兼主任介護支援専門員として従事。2017年から多職種事例検討会のコーディネーターを務める。

無料低額診療事業実態調査報告 ～医療ソーシャルワーカーが実践する ソーシャルインクルージョンについて考える～

北上済生会病院
北上市在宅医療介護連携支援センター 医療ソーシャルワーカー 菊池 涼子 氏



東北福祉大学卒業後、北上済生会病院に医療ソーシャルワーカーとして入職。2016年、北上市より北上済生会病院が在宅医療介護連携推進事業を受託、同年より北上市在宅医療介護連携支援センター(在宅医療介護連携拠点)医療ソーシャルワーカーとして地域包括ケアネットワーク形成に携わっている。社会福祉士。